

# 5 スポーツ観戦

## 5-1 直接スポーツ観戦状況

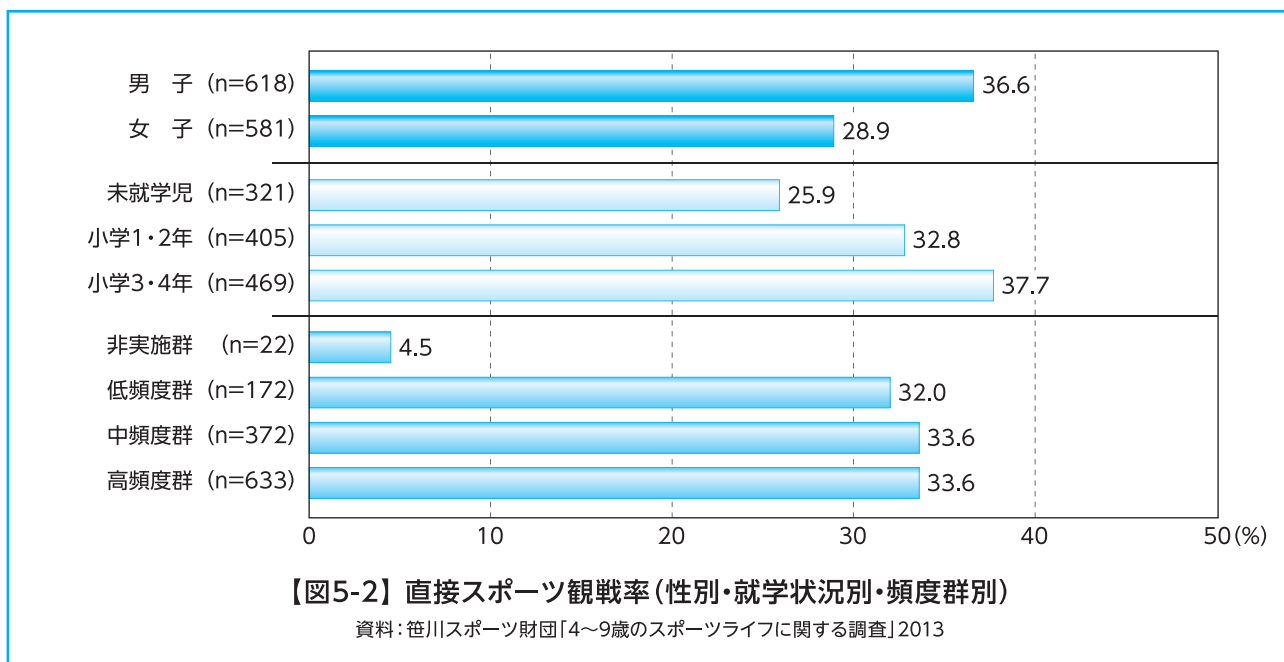
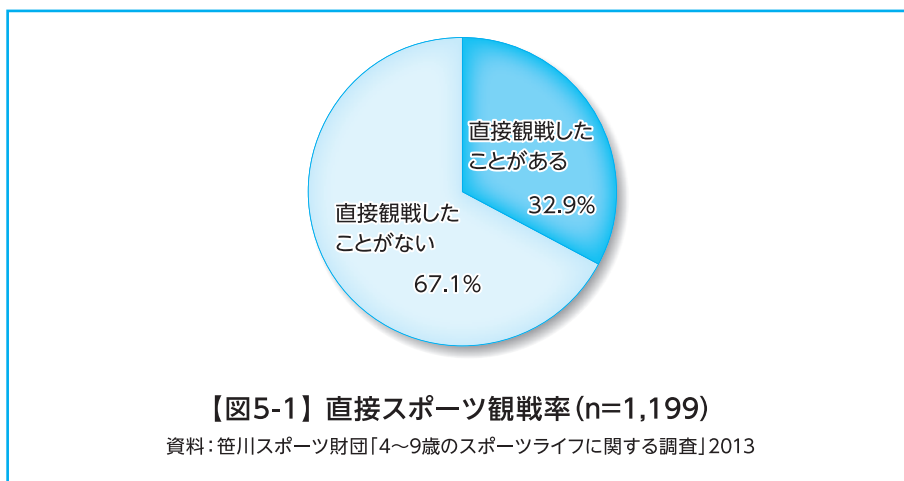
過去1年間に体育館・スタジアム等へ足を運んで直接スポーツの試合を観戦した者は、全体の32.9%であり、わが国の4歳から9歳の子どもの直接スポーツ観戦人口は214万人と推計できる(図5-1)。

性別にみると、男子の観戦率は36.6%、女子は28.9%であり、男子が女子を7.7ポイント上回った。

就学状況別にみると、未就学児25.9%、小学1・2年32.8%、小学3・4年37.7%であり、学年進行にともなっ

て観戦率は高くなる(図5-2)。

運動・スポーツ実施頻度群別にみると、中頻度群と高頻度群がともに33.6%と最も高く、低頻度群32.0%、非実施群4.5%と続いた。低頻度群から高頻度群の運動・スポーツ実施者においては、実施頻度による観戦率の違いはみられないが、非実施群である運動・スポーツ非実施者は実施者に比べて観戦率は30ポイント近くも低い結果が示された。



## 5-2 直接観戦したスポーツ

直接観戦したスポーツは、全体では「プロ野球(NPB)」が13.5%と最も高く、次いで「Jリーグ(J1、J2)」7.8%、「マラソン・駅伝」4.5%、「高校野球」2.3%、「サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)」2.1%であった(表5-1)。

性別にみると、男女ともに「プロ野球(NPB)」(男子16.8%、女子10.0%)が最も観戦率が高い。次いで、男子では「Jリーグ(J1、J2)」11.3%、「マラソン・駅伝」4.4%、女子では「マラソン・駅伝」4.6%、「Jリーグ(J1、J2)」4.0%であり、「プロ野球(NPB)」「Jリーグ(J1、J2)」「マラソン・駅伝」は男女ともに人気が高いスポーツである。

しかし、観戦率が10%を超えるスポーツは、男子では「プロ野球(NPB)」「Jリーグ(J1、J2)」であり、これらで3割を占めているが、女子では「プロ野球(NPB)」のみであった。

就学状況別にみると、いずれの学年も「プロ野球(NPB)」(未就学児9.3%、小学1・2年13.3%、小学3・4年16.6%)が最も観戦率が高く、学年進行にともないその割合は高くなる。次いで「Jリーグ(J1、J2)」「マラソン・駅伝」であった。いずれの学年も同様の種目が上位を占める。

【表5-1】直接観戦したスポーツ(全体・性別・就学状況別・複数回答)

(%)

順位	種目	全体 (n=1,199)	男子 (n=618)	女子 (n=581)	未就学児 (n=321)	小学1・2年 (n=405)	小学3・4年 (n=469)
1	プロ野球(NPB)	13.5	16.8	10.0	9.3	13.3	16.6
2	Jリーグ(J1、J2)	7.8	11.3	4.0	5.0	8.1	9.4
3	マラソン・駅伝	4.5	4.4	4.6	3.1	4.9	4.9
4	高校野球	2.3	3.1	1.5	2.2	1.2	3.4
5	サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)	2.1	2.8	1.4	1.2	1.7	3.0
6	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.0	2.6	1.4	1.2	1.5	3.0
7	バスケットボール(高校、大学、JBLなど)	1.8	1.6	2.1	1.2	1.2	2.8
8	アマチュア野球(大学、社会人など)	1.3	1.5	1.2	1.2	1.2	1.5
10	フィギュアスケート	1.2	0.6	1.7	0.6	1.2	1.5
	プロバスケットボール(bjリーグ)	1.2	1.5	0.9	0.9	0.7	1.7
11	バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.1	0.5	1.7	0.6	2.0	0.6
12	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	0.6	0.3	0.9	0.0	0.7	0.9
13	バレーボール(日本代表試合)	0.5	0.3	0.7	0.9	0.0	0.6
14	空手	0.4	0.6	0.2	0.6	0.5	0.2
	小学生野球・中学野球	0.4	0.3	0.5	0.3	0.5	0.4
	直接観戦したことはない	67.1	63.4	71.1	74.1	67.2	62.3

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2013

## 5-3 テレビによるスポーツ観戦状況

保護者に対し、「調査をお願いしたお子様は、普段テレビでスポーツの中継をみていますか」とたずね、「よくみている」から「まったくみていない」の4段階で回答を求めた。「ほとんどみていない」が最も多く39.5%、次いで「時々みている」33.1%、「まったくみていない」21.1%、「よくみている」6.3%であった(図5-3)。「よくみている」「時々

みている」の割合を足すと39.4%であり、わが国の4歳から9歳の子どものテレビでのスポーツ観戦人口は259万人と推計できる。

性別にみると、男女ともに「ほとんどみていない」(男子36.8%、42.3%)が最も多く、次いで「時々みている」であった(図5-4)。「よくみている」「時々みている」の割

割合を足した場合、男子43.9%、女子34.6%であり、男子は女子を9.3ポイント上回る。また、「まったくみていない」は男子19.3%、女子23.0%であり、女子が男子を3.7ポイント上回った。テレビでのスポーツ観戦においても直接スポーツ観戦と同様、女子に比べて男子のほうが観戦者の割合は高い。

就学状況別にみると、いずれの学年も「ほとんどみていない」（未就学児40.7%、小学1・2年37.8%、小学3・4年39.7%）が最も多い。「よくみている」「時々みて

いる」の割合を足した場合、未就学児32.7%、小学1・2年38.3%、小学3・4年45.2%であり、学年進行にともなって観戦率は高くなる。

運動・スポーツ実施頻度群別にみると、いずれの頻度群も「ほとんどみていない」が最も多い。「よくみている」「時々みている」の割合を足した場合、非実施群13.6%、低頻度群36.2%、中頻度群37.2%、高頻度群42.4%であり、運動・スポーツ実施頻度が高い者ほど、テレビでのスポーツ観戦率も高い結果であった。

